研究機関名：東北大学

受付番号：　2016-1-12
研究課題名 皮膚潰瘍に対して局所陰圧閉鎖療法を行う際の問題点とその対策
研究期間　　西暦　2013 年　7 月（倫理委員会承認後）～ 2019 年　6 月
対象材料 □病理材料（対象臓器名　　） □生検材料（対象臓器名　　） □血液材料　□遊離細胞　■その他（　診療録　　） 上記材料の採取期間　　西暦 2010 年　12 月～　2016 年　2 月
意義、目的 創傷局所に陰圧を負荷して創傷治癒促進を図る陰圧閉鎖療法が欧米を中心に行われ、本邦では 2009 年頃より V.A.C.システム（KCI 社製、米国）、RENASYS 創傷システム（スミス・アンド・ネフュー）などが導入され、良好な成績を挙げている。 東北大学病院においても、褥瘡、糖尿病性下腿潰瘍などの難治性皮膚潰瘍に対して局所陰圧閉鎖療法が施行され、良好な治療成績を認めている。しかしその一方で、局所陰圧閉鎖療法の実施時には、行動の制限、機器の発する重低音、フォーム交換時の疼痛など患者の日常生活を妨げる問題点が存在している。 そこで、これまでの局所陰圧閉鎖療法施行の経過や問題点を振り返り、問題点に対する対策の立案を本研究の目的とする。具体的な対策が講じられれば、今後局所陰圧閉鎖療法を施行する患者に対し、予防的に関わることができ、さらなる QOL 向上に繋がる。また、国内外に情報を発信することにより、世界中の施設における局所陰圧閉鎖療法施行者に還元できると考える。
方法 東北大学病院東 10 階病棟において、局所陰圧閉鎖療法を施行された症例の基本情報（年齢、性別、栄養状態など）、疾患情報（潰瘍のタイプ、部位、サイズなど）、局所陰圧閉鎖療法実施期間、実施中のトラブル、中断の有無を患者記録より収集し、統計学的に検討する。
問い合わせ・苦情等の窓口 保健学専攻看護アセスメント学分野 菅野恵美